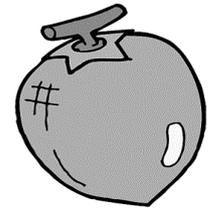




# 柿栽培技術情報（9月の管理）



令和4年8月25日

宮城県大河原農業改良普及センター

## 《ポイント》

**炭そ病の秋季防除を徹底して果実被害の低減を図りましょう。**

### 1 炭そ病

凍霜害に遭遇した園地では、徒長枝の発生が多く軟弱のため、炭そ病の枝病斑の発生が多く見られます。また、台風や秋雨前線により降雨が続くと果実への本病まん延が予想されます。

天気予報に注意し、降雨前の防除を徹底することが必要です。

#### (1) 発病による果実の症状

- ・ はじめ黒色小斑点を生じ、その後拡大して中央部濃黒色、健全部との境が不鮮明な円形～楕円形の少しくぼんだ病斑となります。発病した果実は着色が早く、落果しやすくなります。



炭そ病が発病した徒長枝

#### (2) 耕種的対策

- ・ 新梢の発病を徹底して防ぐことが重要です。枝にできた病斑には孢子が形成され、翌年の伝染源になったりします。樹形が乱れても病斑枝の切除を徹底します。
- ・ 発病して落果した果実は、集めて土中に深く埋めるか、園地外に持ち出して適切に処分します。



炭そ病が発病した果実

#### (3) 薬剤防除

- ・ 8月下旬から10月上旬まで、表1を参考に定期的に防除を行います。
- ・ **長雨が続く場合は、前倒しで防除を行います。**
- ・ 炭そ病菌は雨滴で感染するので、薬剤散布のタイミングは降雨前が原則です。ただし、降雨までに薬液が乾く程度の時間も必要です。
- ・ 薬剤防除は、使用時期（収穫前日数）及び使用回数に注意します。

表1 9月のかきの病虫害防除事例

令和4年8月23日現在

散布時期	対象病害	薬剤名	FRAC	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数
8月下旬	炭そ病	ジマンダイセン水和剤	M03	400倍～800倍	収穫45日前まで	2回以内
9月上旬	炭そ病	ナリアWDG ※1	11/7	2,000～3,000倍	収穫前日まで	2回以内
9月下旬	炭そ病	トップジンM水和剤	1	1,000～1,500倍	収穫前日まで	6回以内
10月上旬	炭そ病	ストライド顆粒水和剤 ※2	M11	3,000～4,000倍	収穫14日前まで	4回以内

### ※ 農薬使用上の注意

- ・ 使用回数はその農薬の使用回数を示していますので、農薬を使用する際には、その剤の使用回数と含有する成分ごとの使用回数に注意してください。
- ・ 農薬散布を行う場合は、事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。

### ※1 ナリア WDG

浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると薬害が生じるおそれがあるのでさけます。

### ※2 ストライド顆粒水和剤

スミチオン乳剤との混用散布及び 7 日以内の近接散布は薬害を生じる場合があるのでさけます。

夏季高温時の他の薬剤との混用散布は、薬害を生じる場合があるのでさけます。

## 2 円星落葉病

- ・ 8 月下旬以降、落葉病が発生した園地では、落葉処理や重点防除時期の 5 月上旬～7 月上旬に薬剤防除が不十分だったと考えられます。
- ・ 被害落葉は土中に埋めるなど、適切に処分します。



円星落葉病の秋の病斑

## 3 台風対策

### (1) 事前の対策

- ・ 強風に備えて樹体は支柱で補強しておきます。
- ・ 排水が速やかに行われるよう園地周辺の排水路の点検、清掃を行います。

### (2) 被害拡大防止のための対策

- ・ 倒伏した場合は、健全な根を切らないようできる限り早く引き起こし、支柱を添えて固定します。
- ・ 被害により樹勢が弱まっている場合は、薬害が発生しないように留意しつつ病虫害の防除を実施します。

### 自然災害等のリスクに備え、農業保険に加入しましょう。

農業経営には、自然災害による収量減少や市場価格の下落をはじめ、様々なリスクがあります。

農林水産省では、収入保険と農業共済の 2 つの保険（農業保険）を用意しています。農業保険は公的保険であり、保険料の一部は国が補助します。また、万一の大災害時にも国の再保険でしっかり補償します。